

第2部
震源直上で何が起こったか？
— 神奈川県に関東大震災 —



厚木神社隣地の慰霊碑（大正13年9月1日建立）



街の71%が焼失した小田原町の焼け跡
（金井圓『神奈川の写真誌』、1971）

2023年

8月30日(水)～11月24日(金)

関東大震災

第34回特別企画展

私は30年間、1923（大正12）年に発生した関東大震災の研究を続けてきた地震学者です。

震源、揺れ、被害について研究し、ここ10年余は震源域の真上にあたる神奈川県と最大の被害を出した東京都23区を中心に、現地調査を行ってきました。その間、様々な疑問の解消に挑戦してきました。そもそも、震災を引き起こした地震の正体は、マグニチュード7.9という根拠は。本震に引き続く余震の発生状況は。揺れ、火災、土砂災害、津波による被害は。人的・物的被害数や経済被害額は。大量の避難者の動向とその救済は。江戸・東京のほかの地震災害は。なぜ東京で最も大きな被害を出したのか。そして、東京市民は如何にして立ち直り、東京は復興したのか。

関東大震災から100年を記念してこれらの成果の一端をみなさんに伝えたい。自然災害大国日本に生きるみなさんが災害を考える上での参考になれば幸いです。

【監修】名古屋大学減災連携研究センター特任教授 武村雅之



「関東大震災の鳥観図」

（吉田初三郎作、大阪朝日新聞大正13年9月15日付録）

 減災館

Disaster Mitigation Research Building

減災連携研究センター

9月16日(土曜日) 13:30～

スペシャルギャラリートーク②

武村雅之特任教授「震源直上で何が起こったか？— 神奈川県に関東大震災—」

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 Tel: 052-789-3468 Fax 052-789-5023

開館時間：13:00-16:00 休館日：日祝・月・火曜日、最終土曜日

※天候、行事等の諸事情により上記以外でも急遽休館になる場合がございます。

※最新の情報はHPにてご確認ください。http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/



関東大震災から
100年の今年に

第34回
特別企画展

関東大震災

東西動^w

南北動^s

上下動^p

本震 3分後余震 4分半後余震



「国立科学博物館と岐阜県立博物館にだけ残る今村式2倍強震計の実物（岐阜県立博物館で武村撮影、2022）」

30年前に岐阜地方気象台で発見した今村式2倍強震計記録（岐阜地方気象台蔵コピー）東西動と上下動は完全な記録

第1部

5/10(水)～8/10(木)

地震の正体を探る

— 関東大震災と地震学 —

我が国の地震学の歴史上、関東地震（関東大震災を起こした地震）の影響は非常に大きい。その渦中で活躍した今村明恒は、その後の震源解明につながる多くの資料を残した。それらを紐解きながら、明らかにされた関東地震の実像に迫る。

第2部

8/30(水)～11/24(金)

震源直上で何が起きたか？

— 神奈川県内の関東大震災 —

神奈川県にとって関東地震は巨大直下型地震である。このため、県全体が震度6以上となり、震度7の地点も広範囲に及んでいる。私は10年余をかけて神奈川県下に残る慰霊碑、記念碑、遺構など関連物の全てについて現地調査を行ってきた。それらの結果をもとに地震時に震源直上で発生する様々な災害とその復興について語る。

液化化で現れた橋の遺構（西坂勝人,1926；『震災予防調査会報告』100号甲）



国の史跡に指定された現在の遺構。

建設当初の江戸橋と昭和通（『帝都復興史』第1巻,1930）

第3部

11/29(水)～2024 3/28(木)

関東大震災が造った東京

— 帝都復興事業とその後 —

関東地震は海外で東京地震と呼ばれることがある。被害の中心が当時の東京市15区であったから当然のことかもしれないが、東京は必ずしも揺れの中心ではない。ではなぜ、震源から離れた東京で最大の被害を出したのか。その反省にたつて東京はどのような街に変身したのか。にも拘わらず、なぜ今東京は首都直下地震に怯えなければならないか。それらを考えてみる。



Disaster Mitigation Research Building

減災連携研究センター

スペシャルギャラリートーク

①7月15日(土曜日) 13:30～

②9月16日(土曜日) 13:30～

③2月3日(土曜日) 13:30～

企画展監修の武村雅之特任教授が『関東大震災』を語ります。

※5名以上の見学はご予約をお願いいたします。



詳細はこちらから